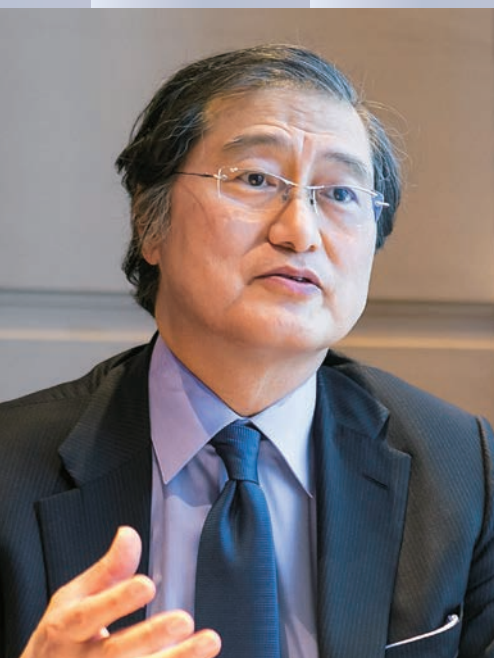


山田秀和

近畿大学医学部奈良病院皮膚科教授

近畿大学アンチエイジングセンター 副センター長



第35回

日本美容皮膚科学会
総会・学術大会開催にあたって

～会頭・山田秀和先生特別インタビュー～

第35回日本美容皮膚科学会総会・学術大会は、「美とアンチエイジング」をテーマに掲げ、7月29～30日の2日間、グランフロント大阪にて開催される。今回の大会は、美容医療の実践的なテーマだけでなく、最先端の領域である「神経美学」やアンチエイジングの領域と融合した演題など、刺激的なプログラム構成となっている。プログラムの見どころについて、会頭の山田秀和先生にお話をお聞きした。

第35回日本美容皮膚科学会総会・学術大会開催にあたって、会頭の山田秀和先生にお話をうかがいます。今回のテーマ「美とアンチエイジング」に込めた想いについてお話しいただけますか。

山田 日本美容皮膚科学会も今回の総会が第35回ですので歴史ある学会になってきました。初期の頃は小さな会場に少人数での開催でしたが、当時から演題は非常に興味深いものでした。学会員数も2,000名を超えた現在、時代が美容皮膚科に追い付いてきたと感じています。

私自身は2000年頃から、「アンチエイジング」は皮膚科学にも重要な領域だと考えるようになり、日本抗加齢医学会でも活動しております。2005年に近畿大学に開設されたアンチエイジングセンターの副センター長も務めています。さらに、塩谷信幸先生(北里大学名誉教授)と一緒に、形成外科や皮膚科、内科といった概念を取り払い、「見た目」という領域で括った研究会、「見た目のアンチエイジング研究会」でも

活動しています。「見た目」と定義すると、皮膚だけでなく、容貌や体形も含みますし、単に見た目の美しさだけでよいのか、美しいとはどういうことなのかという疑問も出てきます。そういったことから、常に美とは何かについて考えているとも言えると思います。

「美とは何か」という問いは哲学的な響きがありますが、最近では医学の世界でも「神経美学」という新たな分野が切り開かれています。ファンクショナルMRI (fMRI) で神経の機能をみるのが可能となり、「美の中枢はどこにあるのか」という問いが画像として確認でき、実態が解明されようとしています。医学と美が非常に近いものになりつつある今、今回の学会では、美容皮膚科領域に刺激を与える「アンチエイジング」という領域と、「美とは何か」という根本的な問いを学会全体で考えてみようと思いました。それが本テーマ「美とアンチエイジング」に込めた想いです。

学会のプログラムはさまざまな演題で構成されていますが、とくに特別講演や教育講演の見どころなどをご紹介いただけますか。

山田 特別講演としては、先ほどお話した神経美学領域の開発者、ロンドン大学神経生物学教授のセミール・ゼキ先生をお呼びして、ご講演いただきます。

教育講演としては、川畑秀明先生(慶應義塾大学心理学准教授)に、ゼキ先生のお話が理解しやすくなる、神経美学への手引きのような講演をしていただきます。

また、シミと悪性黒色腫の鑑別にダーマスコピーをどう活用するかといった、美容皮膚科医として必ず勉強しておくべき重要なテーマも取り上げます。

その他には、美容医療における医療機器承認問題や広告規制問題、消費者保護の問題が、急速に国会で取り上げられているので、日本形成外科学会などの関係機関と、学会1日目の午前の部で、これらの問題について議論します。